

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-142040

(43)公開日 平成8年(1996)6月4日

(51)Int.Cl.^o

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 2 8 D 1/14

B 2 3 B 51/04

T

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-285434

(22)出願日 平成6年(1994)11月18日

(71)出願人 000005094

日立工機株式会社

東京都千代田区大手町二丁目6番2号

(72)発明者 片岡 健治

茨城県ひたちなか市武田1060番地 日立工

機株式会社内

(72)発明者 矢代 裕之

茨城県ひたちなか市武田1060番地 日立工

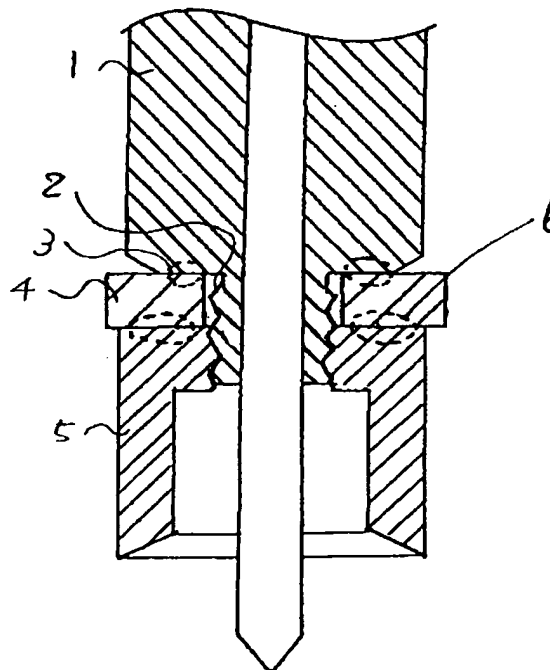
機株式会社内

(54)【発明の名称】 コアビットの取付構造

(57)【要約】

【目的】 本発明は、コアビットの取付構造に関するものであり、その目的は、コアビット取外しの際にワッシャの脱落を防ぐことによって、ワッシャの紛失を防止することである。

【構成】 本発明は、磁気によってワッシャ4がシャンク1の雄ネジ突設面3またはコアビット5に吸着する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 シャンクの先端側にコアビットを着脱自在に螺合させる雄ネジを突設し、該雄ネジの突設面と該コアビットとの間に該雄ネジに挿通されたワッシャを介在させ、該ワッシャを回転させることによって該コアビットが着脱可能に構成されたコアビットの取付構造において、前記ワッシャが磁性体であることを特徴とするコアビットの取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、シャンクに対するコアビットの取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の技術を図2及び図3を用いて説明する。シャンク1の先端にはコアビット5を着脱自在に螺合する雄ネジ2が突設され、該雄ネジ2の突設面3とコアビット5の間に、前記雄ネジ2に挿通されたワッシャ4が介在している。ワッシャの外周には図3に示すようにスパナ等の工具係合面4bが平面上に形成されている。コアビット5をはずす場合は、ワッシャ4をスパナ等で回転させて、ワッシャ4とコアビット5の接触部の係合または摩擦により同時にコアビット5も回転させてははずす構造をとっている。このとき、ワッシャ4はシャンク1の雄ネジ2に挿通されているのみであるため、コアビット5をはずすとワッシャ4も容易に脱落してしまい、コアビット5交換の際にワッシャ4を手でささえないと紛失しやすい構造となっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来のコアビット取付構造は、ワッシャはシャンクの雄ネジに挿通されているのみであるため、コアビットをはずすとワッシャも容易に脱落してしまい、コアビット交換の際にワッシャを手で支えていないと紛失しやすいという問題があった。

【0004】 本発明の目的は、コアビット交換の際に、ワッシャが容易に脱落するのを防止することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的は、前記ワッシャの材質を磁性体にするにより達成される。

【0006】

【作用】 上記のように構成されたコアビット取付構造は、コアビット交換の際にワッシャが磁気によりシャンクの雄ネジ突設面またはコアビットに吸着する。

【0007】

【実施例】 本発明の一実施例を図1を用いて説明する。コアビット5の内周面には雄ネジが螺刻されており、シャンク1の先端側には前記コアビット5の雄ネジに対して螺合可能な雄ネジ2が突設されている。ワッシャ4は磁性体で形成され、その中心に内径が前記シャンク1の先端に突設させた雄ネジ2の外径より若干大きい径を有する孔4aが形成され、雄ネジ2に対して挿通可能となっている。尚ワッシャ4は図3に示すように、外周面において互いに180°反対位置には一対の工具係合部4bが平面状に設けられている。コアビット5をシャンク1から取り外す際は、ワッシャ4の工具係合部4bをスパナ等で挟持し、螺退方向へ回転させる。このときワッシャ4とコアビット5の接触面の摩擦によりコアビット5も螺退方向に回転し、シャンク1との螺合がゆるむ。その後はコアビット5を手で螺退方向に回転させれば外すことができる。ここで、ワッシャ4は磁性体で形成されているため、その磁気6によりシャンク1またはコアビット5のどちらかに吸着したままとなり、ワッシャ4を手で支えていなくても脱落により紛失することはない。

【0008】

【発明の効果】 本発明によれば、ワッシャを磁性体にしたので、コアビット交換の際にワッシャの容易な脱落を防止できワッシャの紛失を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明になるコアビットの取付構造を示す部分断面図である。

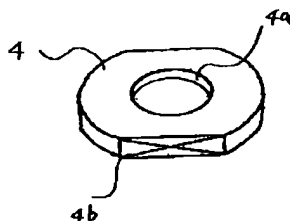
【図2】 従来技術のコアビットの取付構造を示す部分断面図である。

【図3】 本発明になるワッシャを示す斜視図である。

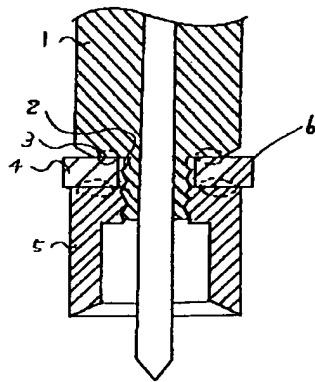
【符号の説明】

2は雄ネジ、3は雄ネジ突設面、4はワッシャ、5はコアビット、6は磁気である。

【図3】



【図1】



【図2】

